# 平成25年度「ヨコハマ市民まち普請事業」整備グループ決定！

平成26年2月2日（土）、横浜市市民活動支援センターで、まち普請事業の2次コンテストが行われました。１次コンテストを通過してからこの日までの間、それぞれの整備提案グループは、まちづくりの専門家や横浜市地域まちづくり課の支援を受けながら、地域や関係機関との調整、デザインや具体的な整備方法の検討など、提案内容のブラッシュアップに取り組んできました。そして今年は、最終的に４グループが2次コンテストの場で集大成のプレゼンテーションを行いました。

２次コンテストでは、「創意工夫」「実現性」「公共性」「費用対効果」「地域まちづくりへの発展性」を審査基準として、はじめに各審査員が三段階で評価を行い、それらを総合した審査基準別評価一覧表が作成され、掲示されます。その後、この一覧表をもとに、各提案の課題や長所等について、審査員と提案グループを中心に議論が交わされ、最終的に審査員の投票によって整備助成対象提案が決まります。

その結果、平成25年度は３グループが助成金の交付対象として選考されました。

審査員からの講評にもありましたが、ここからが本当の意味でのスタートとなります。これから実際に整備が進む中で、様々な課題がでてくるかと思います。それをみんなで力を合わせて乗り越えていくことがまちづくりであり、それがまち普請事業の醍醐味！また素敵なまちが増えていくことがとても楽しみです！

## 平成25年度２次コンテスト結果

| 提案名称 | グループ名 | 区 | 選考結果 |
|---|---|---|---|
| たまプラーザ美しが丘公園を世代間交流の場とする（公園内整備） | 美しが丘公園交流創造実行委員会 | 青葉 | — |
| 町の防災拠点づくり（自治会館改築） | 松ケ丘自治会 | 神奈川 | 選考 |
| 女性の笑顔で人と人をつなぐ地域応援プロジェクト（活動拠点整備） | ディアナ横濱 | 西 | 選考 |
| 戸塚に新しい親子の居場所「ひろばカフェ」をつくろう（活動拠点整備） | 特定非営利活動法人 こまちぷらす | 戸塚 | 選考 |

## まちづくりについての情報を募集しています。

まちづくりに関するイベントや参加者募集、地域で行っているまちづくりの取組などの情報を下記までお知らせください。メールマガジン「ヨコハマ人・まち」で広報のお手伝いをします。

≪情報提供のあて先≫

横浜市 都市整備局 地域まちづくり課
Email : tb-machizukuri@city.yokohama.jp

「ヨコハマ人・まち」のメールマガジンは地域まちづくりに関心のある方々への転送、お誘い大歓迎です。

メールマガジンの配信申し込み・停止は、ヨコハマ人・まち　検索　クリック

平成26年３月発行

# ヨコハマ人・まち
-まちの人がまちをつくる-

vol. 44

発行：横浜市 都市整備局 地域まちづくり課
TEL 045-671-2696　FAX 045-663-8641　Email : tb-machizukuri@city.yokohama.jp
取材・編集：NPO法人　アクションポート横浜
TEL /FAX 045-662-4395　Email : info@actionport-yokohama.org

１Ｐ～３Ｐ　まちに化学変化をもたらす「まち普請」
横浜市地域まちづくり推進委員会
ヨコハマ市民まち普請事業部会委員鼎談会
４Ｐ　平成25年度「ヨコハマ市民まち普請事業」整備グループ決定！

# まちに化学変化をもたらす「まち普請」

## 横浜市地域まちづくり推進委員会 ヨコハマ市民まち普請事業部会委員 鼎談会

“私たちのまちを　私たちでつくる　きっとまちが好きになる”

鼎談者
部会長　名和田　是彦（法政大学教授　公共哲学・コミュニティ論）
委　員　嶋田　昌子（NPO法人横浜シティガイド協会理事）
委　員　松本　道雄（平成22年度まち普請整備経験者）

### ヨコハマ市民まち普請事業とは…。

地域住民の思いを形にすることでコミュニティの広がりをつくることを目的として、市民提案によるハード整備を支援しています。1年を通して行われる、2回の公開コンテストを通過した提案に対して、翌年度上限500万円の整備助成金を交付しています。参加団体が相互支援できる仕組みづくりにも取り組んでいます。

詳しい情報は、横浜市のホームページでご覧いただけます。　まち普請　検索　クリック

事前相談も随時受付中！

ヨコハマ市民まち普請事業は、平成26年度に10回目のコンテストを行います。そこで、25年9月12日(木)、市長公舎にて、まち普請事業開始当初から審査等に携わってきた委員と、提案と整備に携わった市民委員の3名の方々により、これまでの事業の振り返りと今後の期待等について鼎談会を開催しました。今号の「ヨコハマ人・まち」では、その鼎談会の様子をお届けします！

### ハード整備がミソ

名和田
「まち普請事業」は始まって10年近くになります。若い職員の発案で、平成17年に始まりました。市民の皆さんが自ら発意し、整備にも取り組むことで、地域力を掘り起こし、地域を元気にすることが目的です。

嶋田
「まち普請」はハード整備の事業ですが、人と人とのつながりに重きをおいています。グループで申請すること、地域中心のコミュニティとテーマ中心のコミュニティが一緒になって整備していくところに特色があります。

松本
私はコンテストに出た側でもありましたが、モノをつくるという目標にいろんな人たちが引き寄せられる事業はおもしろいと思いました。モノをつくった後、モノが残り、それをどう活用するかが重要です。ソフトだと一過性で終わることもあるけれど、**モノがあることによって活動が継続されていく**のが、「まち普請」なのだと思います。

名和田
地域にしっかりした基盤があって提案に至ることが多いのですが、それまで地域と関係なかったけれど「まち普請」を契機に連携した事例もありました。

松本
提案者としては、自治会との関係が希薄な場合、地域に根を張らなければ選考されないのではないかという意識が働きます。

嶋田
テーマコミュニティが自治会と対立した事例もありましたが、片方が強いのではだめです。地域にある多様な資源を引っ張り出し結びつける「まちの見えない宝の発見」が「まち普請」の効果の一つだと思います。

名和田
「公共性」という点では提案内容に少々不安のあったカフェもありました。しかし、できあがると非常にオープンな施設になった。提案グループも自覚しないままつくってみると公共的なモノになっていたことに、まち普請の力を感じました。

松本
モノに思いが込められる、というよさがあります。皆さん「大変だった」と言われますが、楽しそうに整備しています。それが「まち普請」なんじゃないかと思います。

## 行政が後押しする

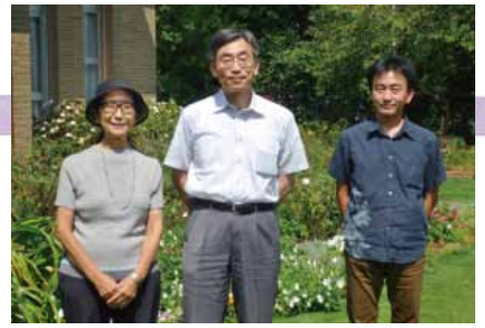
名和田
一見、無理そうな提案も出てきますが、そこを行政が支援するという仕組みがあります。

嶋田
非常に思い出深いのは、神奈川区の公園に小屋をつくるために、新しいルールをつくった事例です。市の他の局も出てきて知恵を出し合い検討する姿は、ドラマを見ているようでした。市民と行政が一緒になって「できない」を乗り越えたのは素晴らしい。

松本
私も、西区の公園で花壇や園路の整備に携わった際に、一般市民が公園の中を整備できる、ということに驚きました。**市民がやりたいことを横浜市がバックアップする**、というのは「まち普請」の特色だと思います。

嶋田
１次コンテストの後、専門家等が支援して、市民の思いが言語化される。１次の時には、何だかわからないものが、２次コンテストの時にはしっかり形になっている。この専門家等の支援は素晴らしいと思います。

松本
提案者だった時に感じたことですが、普通の選考会では落とすための質問をされることが多いと思いますが、「まち普請」では、審査員の質問から「自分たちに求められているもの」を感じ、それを励みに進んでいきました。自分たちの力だけでなく、審査員が引っ張る、行政が背中を押す、という仕組みが生きていて、その全体が「まち普請」の力だと思っています。



## 選考にも特色

名和田
コンテストのあり方としては、どうでしょうか。横浜市民として、同じ市民を審査するというのは面映ゆい、という一面もあります。

松本
１次コンテストの方が審査するのがむずかしい。アイデアとしては、未熟だけれど面白いものもある。伸びる可能性があるものが落ちてしまうことがあるのは残念です。逆に、２次コンテストは完成度で判断されていいと思います。

嶋田
市民だからこそわかることがある。審査員は、市民と市外が半分。このバランスはとても良いと思います。

松本委員

松本
２次コンテストにかけるエネルギーは相当なものなので、選考されないグループには、残念だし申し訳ないと思います。そのため、不選考となってもフォローしていく仕組みが必要ですね。

名和田
選考されなかった事例のことを思うと、胸が痛みます。でも、24年度には、17年度の第１回コンテストで落選し、その後も頑張って活動されていたグループが選考されました。そういう形でカムバックしてくれるのはうれしいですね。

松本
公開審査は重要だと思います。見ている人たちも納得できるようにしていく必要がある。これも「まち普請」の良さだと思います。

嶋田
投票するところまで見えている、というのは緊張しますね。

名和田
コンテストの際、言葉を選んで分かりやすい説明を心がける、というのは普段以上に意識します。

松本
アイデアレベルでの提案が少なくなっているような気がします。ポンポン提案が出てきてもいいと思いますが、その雰囲気が薄れているかもしれません。

名和田
１次コンテストの雰囲気を変えていく必要があるかもしれませんね。

嶋田
私がPTAの活動をしていた頃、「こんなものがほしいね」という話は、たくさん出ていました。そういう気軽な提案でもコンテストに出られるという雰囲気が必要だと思います。

## まちに化学変化をもたらす

名和田
助成金の「５００万円」は非常にインパクトがあります。この金額は維持したほうがいいと思います。

松本
５００万円というのはバランスのいい金額だと思います。ハード整備はお金がかかるので、１００万円では小規模のモノしかつくれません。５００万円だと使い続けることのできる規模のモノができます。

嶋田
５００万円では足りないという声もあり、皆さん随分と知恵をだし、工夫をしています。創意工夫ができる、ちょうどいい金額ではないでしょうか。

嶋田委員

名和田
整備事例を見に行くと、すべての事例が整備されてよかったと思います。

名和田部会長

松本
提案を検討しているグループは整備事例をぜひ見てほしいですね。できたモノは一つでも、その思いや成果が人を介して広がっていくということが、行政のまちづくりと違うところだと思います。

嶋田
つくって終わりではなく、**つくることで伸びる、地域が変わっていく。**「まち普請」の過去の事例を思い浮かべると、どんな地域でも変わっていっています。その意味でも効果が大きい事業で、「まち普請」は今後も発展していってほしいですね。

松本
**モノをつくるだけでなく、それによって人と人が出会い、協力していく。**まちにそのような化学変化が生じていく、というのが「まち普請」の意義だと思います。

名和田
ハード整備は地域に影響があるため、地域の合意が必要となる。その過程を経て施設（ハード）を整備していくことになるので、地域力も問われる。でも、提案の種はたくさんあるはずなので、それらを掘り起こし、継続して発展していってほしいと思いますね。

「西柴団地商店街の空き店舗を利用した地域活性化プラン」（金沢区西柴町３丁目）

「地域のコミュニケーション基地「うさきちハウス」づくり」（神奈川区片倉町）

「中川駅前中央遊歩道のルネッサンスプロジェクト」（都筑区中川１丁目）